

青少年活動センターのページ

「アジプロ」

京都若者サポートステーション（以下、サポステ）では、就職活動に一步踏み出せずにいる若者のための就労体験事業「アジプロ」を2007年9月から行っています。

あ たまと体をつかって「働く」ことを **じ** っかんする **プ** **ロ** グラム

アジプロとは

2006年のサポステ開設時は相談とセミナーを主にしていました。当時、利用している若者の多くが「働かなければいけない」という気持ちの一方で、働くことに躊躇し「自信がない」と行動できずにいました。そこで若者が自信をつけるためには体験（成功・失敗を含めて）を通じて実感することだと就労体験事業を立ち上げました。

まず、カフェに興味のある若者が多いこと、また体験でどういふことをするかイメージがつきやすいことから南青少年活動センターの喫茶コーナーを活かし、喫茶体験をスタートさせました。一方で、接客に抵抗のある若者で事務職に興味がありながらも電話対応に苦手意識を

もっている人も多かったため、下京青少年活動センターでの事務体験をその2年後に始めました。

アジプロは2～3日の事前研修からはじまり、3～4日の体験、1日の全体ふりかえりを行います。事前研修では講師をむかえ、社会人

としてのマナーや接客あるいは電話・窓口対応の基礎を学んだ後、ロールプレイをし体験に備えます。喫茶体験では調理を含む開店準備から開店後はホールスタッフを中心にカフェ運営をします。事務体験では下京青少年活動センターの職員として電話と窓口対応をしながら、体験者同士で次クール参加者向けのチラシ作成をします。

体験者の多くはコミュニケーションに不安があり、グループでの体験から他者との関わり方を体感します。体験を無事最後まで終わると、自信が付き仲間を実感します。研修時は緊張でその場にいるのもやっとだった若者が、体験を終え最終日のふりかえりで「働くことが楽しいと感じることができた」と発表し大きな変化がみられました。

にします。もし、不明確なまま就労に結びついたとしても自身の課題解消につながっていないため、すぐに仕事を辞めてしまう可能性が高くなります。



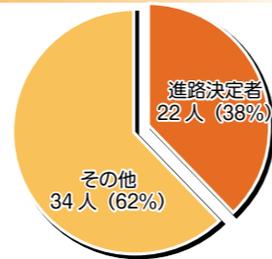
喫茶体験



窓口対応の事前研修

ふりかえりの大切さ

アジプロの特徴は丁寧なふりかえりです。体験後に必ず1時間30分ほど体験者と職員でふりかえりの時間を設けています。体験直後は失敗や出来ていないことに目がいきがちになり、不安な状態に陥っています。それを乗り越えられるよう、ふりかえりでは自身が向き合うべき課題を他の体験者と職員でじっくり話し合います。体験メンバーそれぞれが現実とのギャップを徐々に埋めていき、最終日の全体ふりかえりで次へのステップを明確



2007年9月～2011年12月 アジプロ参加者

パレットハウスと「アジプロ」



事務体験

これまでパレットハウスから、沢山の利用者さんが「アジプロ」に参加しています。皆かなり緊張感やプレッシャーを抱えて参加しますが、やり遂げた時に得る自信は絶大なモノがあります。

「アジプロ」に参加した利用者さん達の姿や話を聞いて、他の利用者さん達も大いに刺激を受けて「次は自分も」という思いにつながっていきます。

スタッフとして水面の上を静かに広がっていく、波紋のような優しい影響を見守って応援していきたいと思えます。

(特定非営利活動法人パレットハウス 指導員 小田晃)

アジプロを終えての感想

○ 20代女性 (アジプロ・喫茶体験)

体験は段階を踏んでステップアップできたことが本当に良かったです。体験自体も非常に楽しかったのでやってみて良かったという気がしみじみしました。

いつも「ふりかえり」があったのが、良い時間でした。意見や気持ちをいい表すのは苦手なので毎回苦労しましたが、言葉にすることで自分の中にあるものを確認することができました。

○ 20代男性 (アジプロセカンド・宿泊施設体験)

楽しんで働くことを体験しましたが厳しさも学びました。手ぎわが悪かったり、次に何をしたら良いのか分からなかったり、よく注意を受けました。最初は注意されるのが嫌でビクビクして受け入れられなかったのですが、気に掛けてもらっているんだと考えを改めると、注意されても落ち込まず受け入れることが出来ました。仕事は生活の手段かもしれませんが、携わった人の人間性を高めてくれるものだと思います。体験前と比べて、自分は社会でもやっていけるんだと思いました。

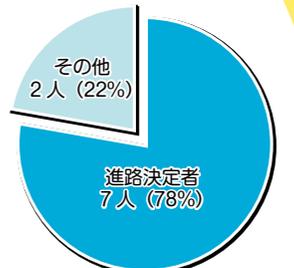
次へのステップ アジプロセカンド

アジプロはあくまで働くおためし体験です。不安軽減のきっかけとなりますが、「アルバイトをしたいがもう少し体験をして自信をつけたい」という方は就労現場での体験、アジプロセカンドにつながっています。

アジプロセカンドは週3日4～6時間、約1カ月の体験です。体験をする事業所で面接を受け、体験開始。体験後は毎回ふりかえり日誌を書き、現場職員にコメントをもらいます。あわせて、その日のうちに電話報告も行うことで、体験での作業や感じたことを自分の言葉で表現する力がついていきます。アジプロと同様、ふりかえりをサポステ職員と一緒に中盤と体験後に約1時間

ほど行います。最後まで体験を終えたことはもちろんのこと、現場職員から客観的なフィードバックがあることで現実とのギャップが更に埋まり、就労につながりやすくなります。

(京都若者サポートステーション ユースワーカー 富田祐子)



2007年12月～2011年12月 アジプロセカンド参加者